

## 地域社会におけるマンション居住者のコミュニティ形成に関する研究 その1 —インターネット調査から得られた結果—

正会員 ○高 敏\*  
正会員 上山 肇\*\*

マンション コミュニティ形成 インターネットリサーチ  
交流意欲 都心6区 千代田区

### 1. はじめに

23 特別区のうち、都心6区（千代田区・中央区・港区・新宿区・渋谷区・品川区）は、政治・経済・産業・教育などの機能が集積し、また、鉄道・道路・物流などの一大結節点である。このように多機能を持つ都心6区におけるまちづくりを進めるためには行政・区民・企業・大学・NPOなどが持つ知識・経験・技術を活かして新たな社会経済情勢に即応した協働によるまちづくりを構築していくことが不可欠である。

一方で6区においては本来、地域のコミュニティを支える町会・自治会に加入する区民の減少や自治会・町会の後継者不足の傾向が見られており、行政としては、今後、町会・自治会の活性化と地域コミュニティの醸成を図っていくことが喫緊の課題である。今後、地域のコミュニティの活性化を進めていくためには、町会・自治会へのマンション住民等の加入を促進し、地域におけるつながりをどのように醸成していくかが課題といえる。

### 2. 調査方法・対象・期間

本調査は、「地域の交流を促進する施策」に向けた検討に必要となる区民の意識などを把握することを目的に、都心6区に住むマンション居住者に対して、マンションと地域の交流促進に関するアンケート調査を行った。

- (1) 調査方法：マクロミルによるインターネットリサーチ
- (2) 調査期間：2017年6月22日～6月26日
- (3) 調査対象：都心6区（千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区、品川区）におけるマンション居住者416名

### 3. 結果と考察

#### 3-1 回答者の基本属性

マンション居住者416人の性別は男と女が同じく208人（50%）である。既婚者は228人（54.8%）、子供ありの人は160人（38.5%）である。職業については会社員（214人、51.4%）と専業主婦・主夫（52人、12.5%）が多い。

#### 3-2 地域との交流・関わりについて

地域との交流を持っていない人が最も多く75.0%、持っている人が25.0%であった。

住まいの地域ともっと交流を持ちたいと思わない人が

最も多く36.3%、マンション内の居住者間で交流を持ちたいと思わない人も最も多く45.7%であった（図1）。

以上のことから、交流を持っている人と持ちたいと思う人が少ないことがわかった。今後人々の地域との交流や関わりを作るなど交流の意欲を向上させるための工夫が必要である。

#### 3-3 地域と交流・交流したくない理由について

地域と交流を持ちたい理由について、「地域の人と交流したいから」が最も多く52.6%、次いで「地域のことをもっと知りたいから」が50.4%となっている。その他の内容について、「お祭りに参加したい」などの回答がある（図2）。

地域と交流を持ちたくない理由について、「面倒くさい」が最も多く49.1%、次いで「必要性を感じない」が44.2%となっている。その他の回答については、「仕事の時間と合わない」や「人間関係は煩わしくなる」などの回答が多い（図3）。

以上のことから、今後居住者の参加したい交流のイベントや活動などを把握する上で、魅力的な交流の機会をつくる必要がある。

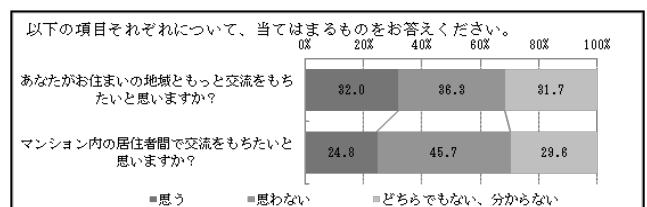


図1 交流の意向について

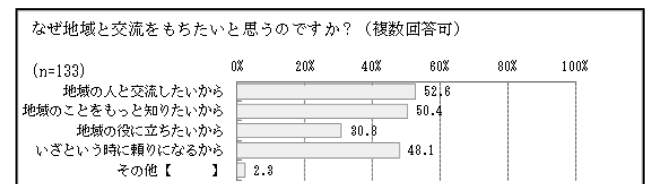


図2 地域と交流を持ちたい理由

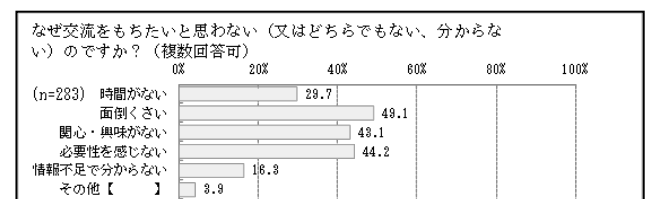


図3 地域と交流を持ちたくない理由

### 3-4 マンション内で交流したい・したくない理由について

マンション内で交流したい理由について、「マンションの人と交流したいから」が最も多く 68.0%、次いで「いざという時に頼りになるから」が 52.4%となっている。その他の内容について、「最近、居住環境が悪化しているから、話し合いたい」と「マンションの価値を上げたいから」の回答がある（図4）。

マンション内で交流したくない理由について、「面倒くさい」が最も多く 56.8%、次いで「関心・興味がない」が 51.1%となっている。その他の内容について、「安全性に心配」や「近隣の冷たさ」などの回答が多い（図5）。

以上のことから、マンションでの交流意欲を向上するために、マンション内の交流の重要性（例えば、防災時の相互救助等）を居住者に認知させる同時に、交流の機会をつくる必要がある。

### 3-5 千代田区における地域との交流・関わり

地域と交流・関わりを持っている人は「子供あり」が「子供なし」より多く 75.0%、持っていない人は「子供なし」が多く 64.3%となっている（図6）。また、持っている人は「既婚」が多く 75.0%、持っていない人は「未婚」と「既婚」がそれぞれ 50.0%である（図7）。

千代田区において、地域と交流を持っている人は「既婚」と「子供あり」が多いことから、結婚と子育てが地域交流の促進のきっかけになっていると思われる。

### 3-6 千代田区における地域と交流を持ちたくない理由

地域と交流を持ちたくない理由について、職業「会社員（技術系）」は「面倒くさい」が最も多く 6人、次いで「会社員（事務系）」は「必要性を感じない」と「面倒くさい」がそれぞれ 5人となっている（図8）ことから、今後会社員が参加したいと思えるもしくは参加できる条件（活動内容、時間帯、費用など）を明らかにし、交流の内容を把握する必要がある。

### 3-7 千代田区におけるマンション内と交流を持ちたくない理由

マンション内と交流を持ちたくない理由について、「子供なし」は「面倒くさい」が最も多く 18人、「子供あり」は「時間がない」が最も多く 8人となっている（図9）。このことから、今後「子供あり」の人のため、交流のイベントなどを新たに計画する必要がある。

## 4. おわりに

本研究では都心 6 区におけるマンションの居住者を対象とし、「地域の交流を促進する施策」に向けた検討に必要となる区民の意識などを明らかにした。マンション内と地域との交流を持っている人は少なく、交流を持ちたいと思う人も少ないことがわかった。この課題を解決するため、

今後、人々の地域との交流・関わりをつくる前に、居住者の参加したい活動のかたちを把握するべきである。

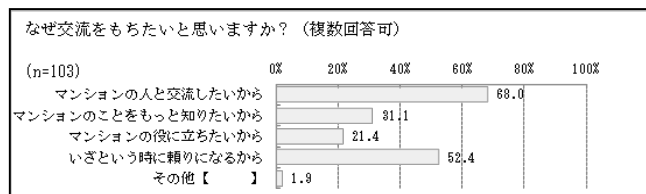


図4 交流を持ちたいと思う理由

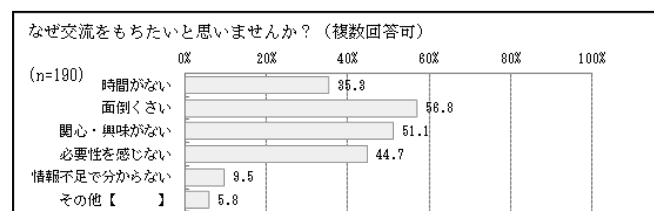


図5 交流を持ちたくない理由

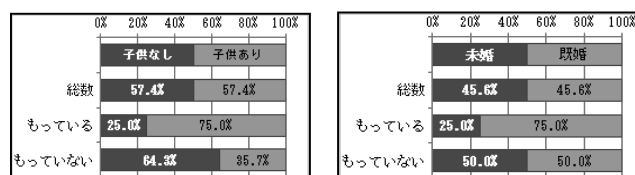


図6 子供有無別地域との交流・関わり (n=68) (左)

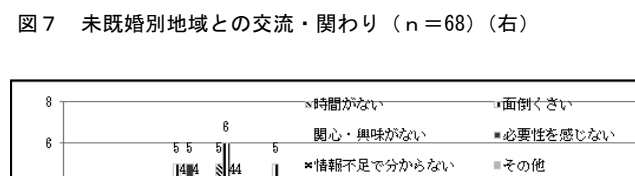


図7 未既婚別地域との交流・関わり (n=68) (右)

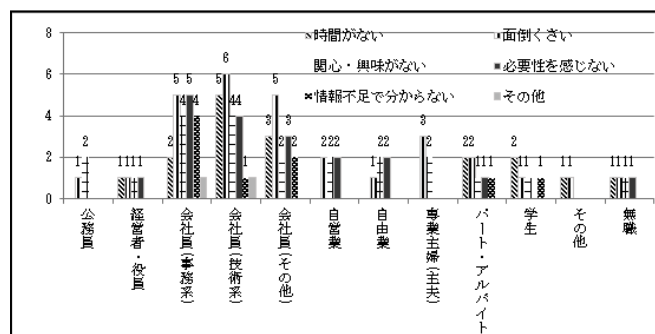


図8 職業別地域と交流を持ちたくない理由 (n=68)

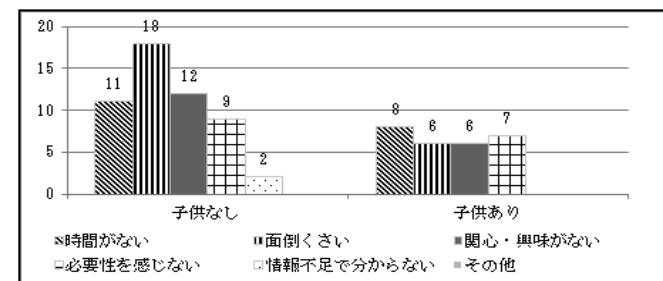


図9 子供有無別地域と交流を持ちたくない理由 (n=68)

### 【参考・引用文献】

法政大学大学院政策創造研究科上山肇研究室:平成 29 年度 千代田学事業報告書「千代田区におけるマンションと地域の交流促進—市民協働の視点から—」, 2018. 3

\*法政大学大学院 政策創造研究科 大学院生 修士(政策学)

\*\*法政大学大学院 政策創造研究科 教授 博士(工学),博士(政策学)

\*Graduate Student, Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Master of Policy, Planning, and Development

\*\*Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng., Ph.D.